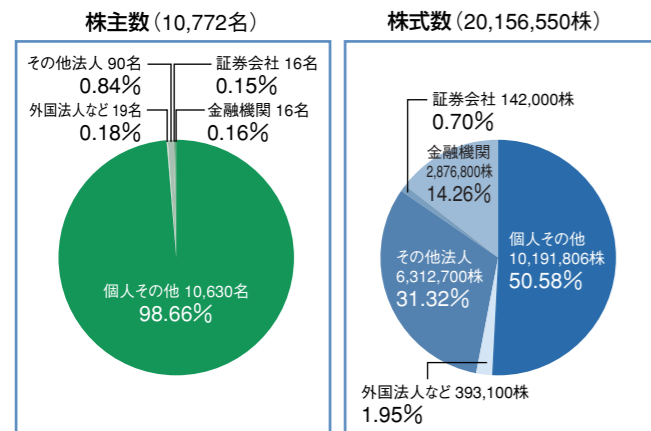


大株主 (平成17年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
1. 三井物産株式会社	2,566,000	12.73
2. 株式会社小松製作所	1,820,000	9.03
3. 株式会社クボタ	1,200,000	5.95
4. 山村 章	803,400	3.99
5. 株式会社東京三菱銀行	420,000	2.08
6. 住友信託銀行株式会社	400,000	1.98
7. 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	363,500	1.80
8. 日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	308,100	1.53
9. 日興シテイ信託銀行株式会社(投信口)	277,100	1.37
10. 日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	223,100	1.11

所有者別株式分布状況 (平成17年3月31日現在)



(注)自己株式240,144株は上記の円グラフ中の株主数・株式数に含まれていません。

株主メモ (平成17年3月31日現在)

決算期 3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 株主確定 3月31日
 利益配当金 3月31日

1単元の株式数 100株
 名義書換代理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付および電話照会先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(住所変更用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417

同取次所 住友信託銀行株式会社
 本店および全国各支店

●FAX送信サービス

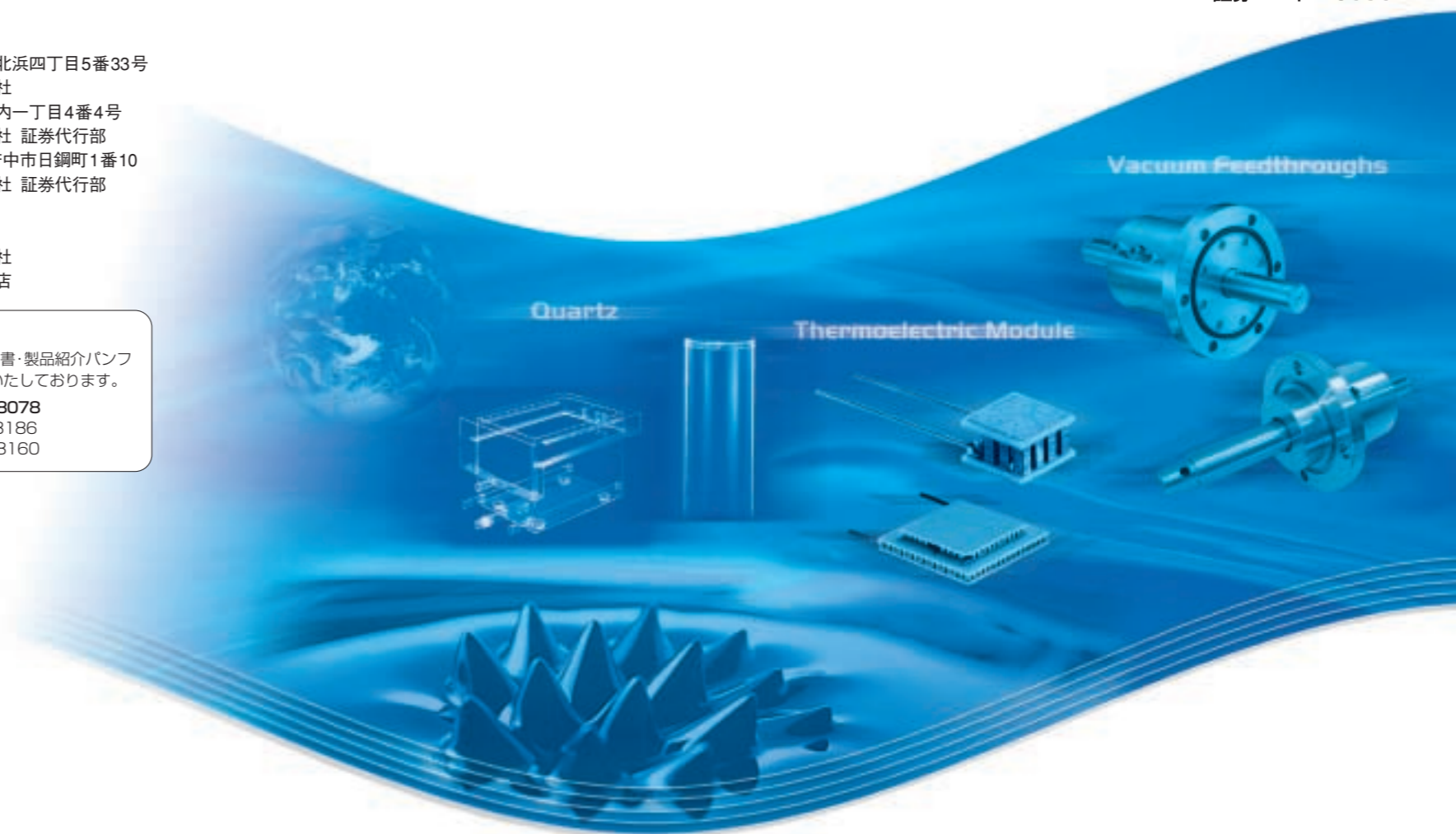
株主・投資家の皆様に、会社案内・決算短信・事業報告書・製品紹介パンフレット・ニュースリリース等をご要望に応じて提供いたしております。

FAX送信サービス FAX 03-3281-8078
 お問い合わせは、総務部 広報課 TEL 03-3281-8186
 FAX 03-3281-8160

第25期事業報告書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

証券コード：6890



Ferro Tec

株式会社 フェローテック

〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14
 TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848
 URL <http://www.ferrotec.co.jp>



フェローテックは環境方針に基づき環境保全活動を積極的に推進しています。



Ferro Tec

株式会社 フェローテック

TOP INTERVIEW

個人投資家の視点でフェローテックの現在と未来を探る



代表取締役社長 山村 章

万全な生産体制と新製品の開発により本格的なV字回復へ

Q1 貴社はハイテク産業の一翼を担う企業ですが、ビジネスの成り立ちをわかりやすく説明していただけますか？

「磁性流体」という当社のスター製品があります。これは見ると液体状のもので、磁石に引き寄せられるという他にない特異な性質を持ちます。その特性によって、現在、半導体メーカーやコンピュータメーカーなどの業界で、気密性を確保するシーリング装置や放電・放熱媒体に使われています。これはもともとNASAの宇宙開発の中から生まれたものです。

この開発に携わった技術者が設立した米国のベンチャー企業〈フェローフルイディクス社〉に私は1979

年に入社しました。その後、私は日本法人日本フェローフルイディクスの代表を務めていましたが、1987年に親会社であるフェローフルイディクス社から独立しました。さらに1999年には友好的なTOBで元の親会社を買収することになりました。

これにより、当社の「磁性流体」製品の世界シェアは、真空シールは70%、コンピュータシールは100%となっています。コンピュータ関連では、流体軸受など新しい応用技術も出てきています。当社は「磁性流体」のほかにも「サーモモジュール」や「石英ガラス製品」を製造していますが、〈次のスター製品を育てる〉これが目下重要なテーマとなっています。

Q2 用途拡大が期待される製品「サーモモジュール」についてお聞かせください。

「サーモモジュール」は、精密な温度調節が可能で、かつ静粛性とクリーンな特性をもつ小型・軽量の冷熱素子です。現在、病院やホテルの冷蔵庫、また光通信、半導体製造装置などで使用されています。とくに期待されているのは自動車の座席でのニーズです。すでにフォード社、ゼネラルモーターズ社やトヨタ自動車などの高級車クラスを中心に搭載が進んでいます。

この製品は、原材料の調達から製造まで中国の子会社による一貫した生産体制を確立しています。自動車産業から、エレクトロニクス、さらにバイオテクノロジーなどのライフサイエンス分野まで幅広い用途市場を持つ「サーモモジュール」は、当社のこれからの柱となる製品です。

Q3 業績が〈V字回復〉した、その要因についてはいかがでしょうか？

磁性流体を用いたコンピュータシールの売上減少がここ数年の業績不振の要因でしたが、その間、当社は新製品の開発や中国への生産シフトを進めてきました。まず石英ガラス製品において、中国子会社への生産体制の移管がほぼ完了し、中国へ進出した半導体メーカーのニーズに充分応えられるようになったこと。また、シリコンウェーハ加工、装置部品洗浄、工作機械製造の受託など、中国を舞台としたCMS事業の進展などがあげられます。

また、当社では今年3月に公募増資を行い20億円調達いたしました。資金の主な用途は、中国における

サーモモジュール関連製品の生産設備拡大と、CMS事業の新しい製品への準備です。

Q4 今後の事業戦略についてお聞かせください。

当社の場合、半導体関連産業で売上の約半分を形成しています。真空シールの分野ではドイツ法人と独占供給契約を結んでいます。つい最近、韓国の有力企業と世界市場を視野に入れた販売提携も行いました。また、セラミックス加工において、米国企業とのジョイントベンチャーを中国でスタートする予定です。

今後、半導体関連では製品供給だけでなく、インテグラルなかたちでのマーケティングが可能になると思います。さらなる業容の拡大のためには現在の事業に関わる範囲でのM&Aも考えています。

インタビューからの一言

テレビキャスター

内山 敏夫 (うちやまとしお)

〈プロフィール〉

1944年生まれ。早稲田大学政経学部卒業後、日本経済新聞社に入社。政治、産業の取材記者、デスクを経て1987年テレビ東京に移る。プロデューサー、コメンテーターを経て独立。



今から7年ほど前に、もっと開かれた「株主総会」を行いたいという山村社長のご意向で私ども個人投資家協会とフェローテックさんのお付き合いが始まりました。個人投資家を大事にする企業と聞いていいでしょう。今回あらためてお話を伺ってみて、いつも学者然とした山村社長なのですが、最先端技術とマーケットニーズを合致させる果敢なベンチャースピリットと優れた経営手腕を持ったトップであると強く印象づけられました。

業界をリードする3つの先端技術

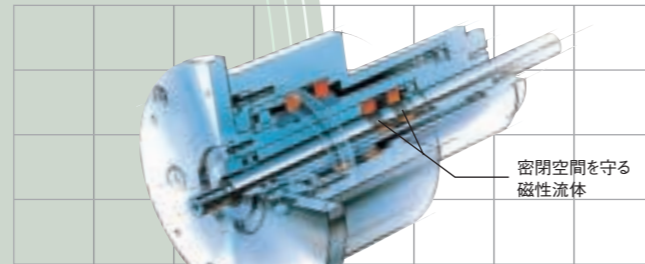
未来への無限の可能性を秘めた先端テクノロジーにいち早く着目し、他にない独自性と高い信頼性を発揮すべく、その応用技術の研鑽に努め、ハイテク産業の進化を支える。

磁性流体 応用製品

真空シールの世界シェア70%
コンピュータシールの世界シェア100%
フェローテックの〈磁性流体〉応用製品は、ハイテク産業の技術革新を推進します。

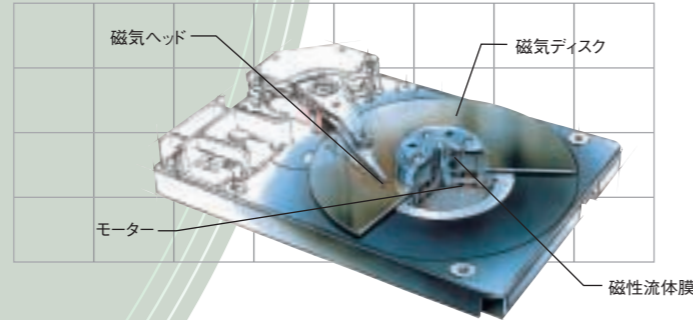
〈真空シール〉

半導体ウェーハや液晶基板の製造場面では、真空状態やプロセスガスで満たされた密封空間が必要となります。こうした真空加工装置の中を完璧な密閉状態にし、回転軸を通じて動力を伝えるのが真空シールの役目です。チリや微粒子などの侵入も防御し、他のシール方式に比べ、耐酸性、対高温性に優れ、用途が拡大しています。当社製品は、磁性流体シールにおいてトップシェアを有しています。



〈コンピュータシール〉

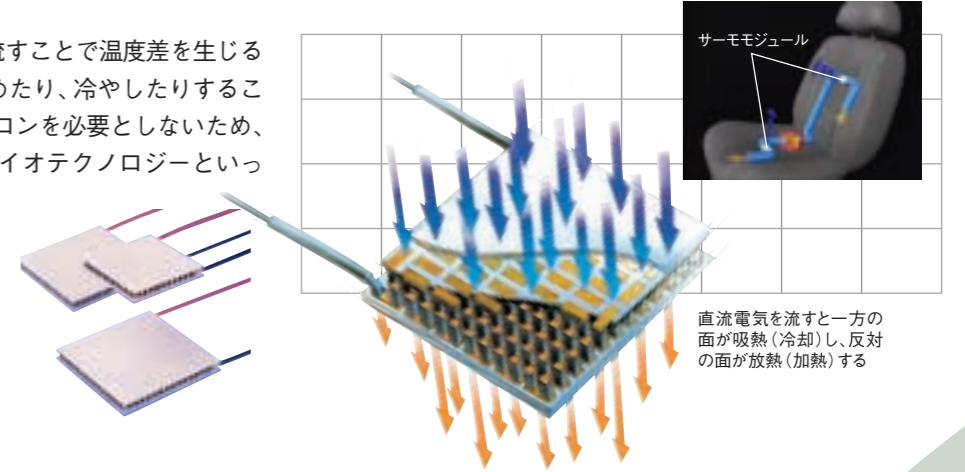
コンピュータの記憶装置である〈ハードディスクドライブ〉の中に、大切なデータを保護する用途で装着されているのがコンピュータシールです。モーター内部で発生する超微細なゴミやチリの侵入を防ぎ、静電気を外部へ逃す役割を担っています。信頼性が求められる高性能大型コンピュータに組み込まれ、シェア100%を誇ります。



サーモ モジュール

正確な温度コントロールを実現。
地球環境にやさしい〈サーモモジュール〉は、自動車からライフサイエンスまで多様な分野で用途を拡大しています。

サーモモジュールは、電流を流すことで温度差を生じる半導体冷却素子で、対象物を暖めたり、冷やしたりすることができます。小型・軽量でフロンを必要としないため、エレクトロニクス、光通信、バイオテクノロジーといった成長分野から、冷蔵庫などの家電まで、幅広い領域で採用されています。また、国内外の自動車メーカーへ向けた〈温調シート〉での活用により、需要の拡大が期待されています。

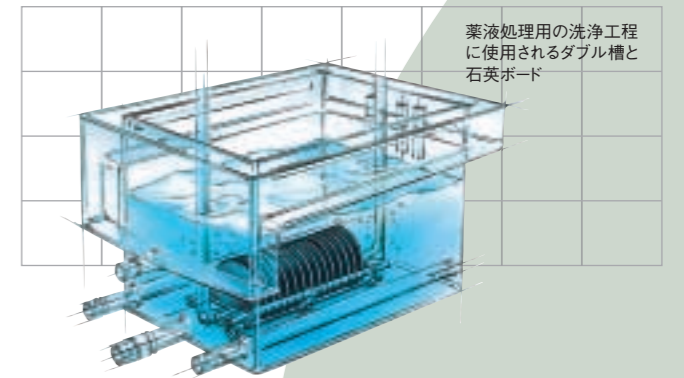


直流電気を流すと一方の面が吸熱(冷却)し、反対の面が放熱(加熱)する

石英ガラス 加工製品

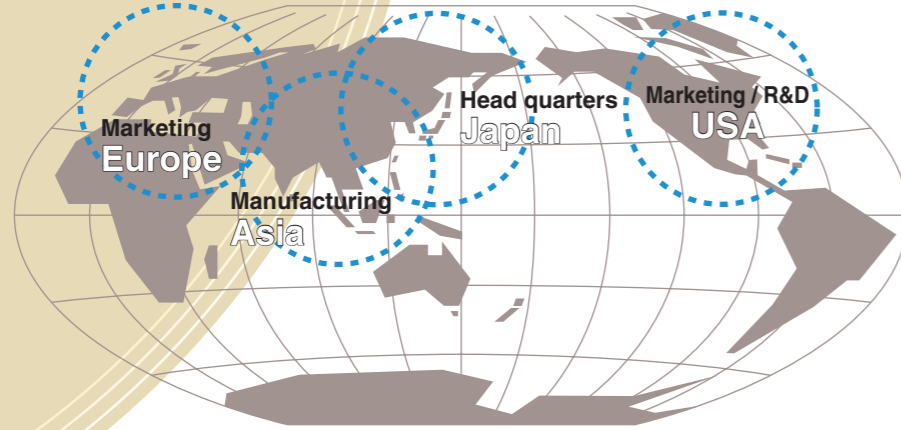
半導体メーカーをはじめとするハイテク産業分野で、高度な精密加工技術を生かした〈石英ガラス加工製品〉は、高い信頼を獲得しています。

半導体ウェーハや発光ダイオードの製造には、高温作業に耐え、活性ガスとの化学変化を起こさない高純度の石英ガラス製品が必要です。純度99.99%のシリカガラスからなる石英製品は、シリコンウェーハの薄膜生成・搬送・洗浄などの工程で、高温処理に耐える特殊な容器として大量に採用されています。半導体製造工程に必要なあらゆる石英製品をラインナップしています。



競争力を発揮するグローバルネットワーク

日本、アジア、欧州、北米、グローバルネットワークを最大限に活かし、競争力のあるビジネスを推進。



Japan

グループを統括するヘッドクォーター

日本は、グループ全体のヘッドクォーターとしてファイナンスや生産技術開発を担っています。その中枢となる株式会社フェロテックでは、世界中のグループ会社からの情報を集約しながらグローバルな事業戦略の構築とその指揮を行っています。



USA

独自技術を支えるマーケティング・R&D拠点

アメリカの拠点は、製品開発と北米へのマーケティング活動を担う役割を担っています。世界有数のコンピュータメーカーの最先端技術動向と市場動向を早期に捉え、的確に製品化できるよう技術開発に取り組んでいます。



Asia

効率的な事業経営を支える生産拠点

“グループ製品の集中生産拠点”を担う中国では、ISO9002の認証取得のもとにCMS事業拡大にむけて万全の生産・品質管理体制を確立しています。また、シンガポールにアジア・マーケティングを担う事業拠点を設け、製品供給体制の整備に取り組んでいます。



Europe

欧州市場を開拓する戦略拠点

ドイツと英国を中心に、現在6事業拠点を擁して欧州全域でのマーケティング活動、高付加価値製品の開発・設計などを行っています。EUへの加盟が加速している東欧は大きなマーケットとして注目しています。



ハイテクを支える製品群

半導体関連から自動車、エレクトロニクス、バイオテクノロジー産業まで、先端技術をマーケットとして事業活動を展開。

〈装置関連事業〉

半導体および液晶・PDP・有機ELなどFPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置向け製品を取り扱っています。主な製品：磁性流体技術を応用した「真空シール」、半導体製造工程に不可欠な「石英製品」など。

装置関連事業

〈半導体/FPD〉



真空シール



石英製品

〈電子デバイス事業〉

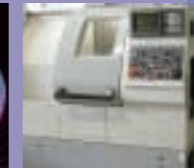
情報通信機器・自動車・エレクトロニクス機器などハイテク産業分野向けの製品を取り扱っています。主な製品：HDD（ハードディスクドライブ）向け部品「コンピュータシール」や冷熱素子「サーモジュール」、当社のコアテクノロジー「磁性流体」など。

CMS事業

〈半導体/エレクトロニクス〉



シリコンウェハ事業



工作機械



コンピュータシール



サーモジュール

電子デバイス事業

〈HDD/バイオ/エレクトロニクス/自動車〉

〈CMS事業〉

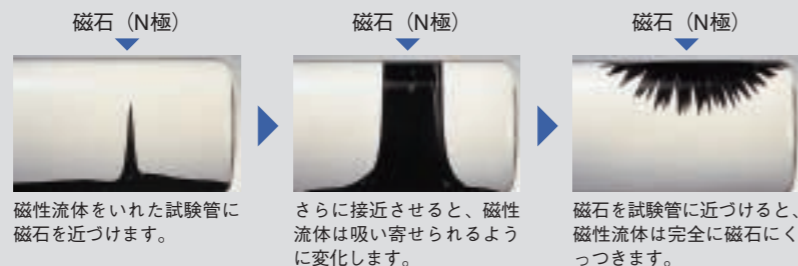
中国における生産能力、オペレーションノウハウを活かした受託生産事業です。当社の生産対応力とパートナー企業もつ優位性のある技術を融合することで、グローバル市場において競争力をもった製品を創出する新たなビジネスモデルです。

究極の素材「磁性流体」

NASA アポロ計画から生まれ、ハイテク産業から一般家庭まで様々な領域に生かされているコア技術

世界にただひとつ不思議な液体「磁性流体」

磁石に反応する物質として皆さんは何を思い浮かべますか？ 子供の頃、砂場で磁石を引きずって砂鉄を集めた記憶をお持ちの方もいるかもしれません。磁石に反応する物質は、主に鉄、コバルト、ニッケルなどの金属類でいずれも固体です。それに対して「磁性流体」は、磁界によって保持、あるいは位置決めすることが可能な磁性材料として、現在知られている唯一の液体です。



磁性流体をいれた試験管に磁石を近づけます。

さらに接近させると、磁性流体は吸い寄せられるように変化します。

磁石を試験管に近づけると、磁性流体は完全に磁石にくっつきます。

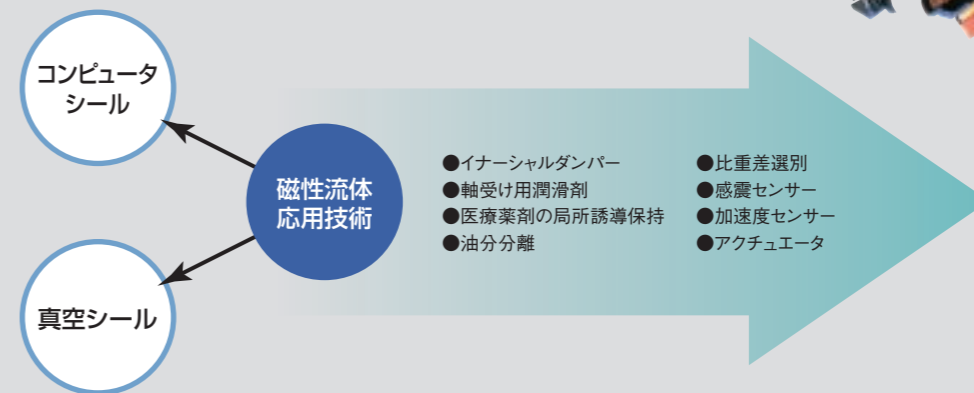
アポロ計画から生まれたナノテクノロジー、究極の素材

「磁性流体」誕生のきっかけは、1960年代にスタートしたNASAのアポロ計画でした。NASAのスペースプログラムから依頼を受け、元親会社の米国フェローフルイディスク社で「磁性流体」は開発されました。「磁性流体」は、10ナノメートル^{*}程度の磁性超微粒子を液体中に分散させたコロイドですが、凝集や沈降することなく、かつ粒子が極めて小さいために外見は黒褐色の艶やかな液体です。
※1ナノ=10億分の1メートル

スピーカーからハードディスクドライブまで幅広い用途

「磁性流体」が初めて商業的に実用化されたのはスピーカーへの採用です。「磁性流体」をオーディオスピーカーのボイスコイル部に注入すると、最大許容入力の上、周波数特性の改善、システムコストの低減、高周波歪の減少などスピーカーの性能が向上します。これは「磁性流体」の持つ放熱効果、センタリング効果、およびダンピング効果によるものです。当社の「磁性流体」は、家庭用・カーコンポ用スピーカーなどで幅広く利用

されています。また「磁性流体」の主要な応用製品として、ハードディスクドライブの導電性防塵シールと真空の気圧差にも耐え、気体のもれを防ぐように設計された真空シールがあります。その他にも、軸受け用潤滑剤やプリンター用磁性インクなど様々な分野で、その用途が拡大しています。



その不思議な性質から アートの世界にも登場する「磁性流体」

——画像提供：電気通信大学 児玉研究室

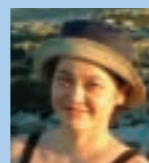


児玉幸子、竹野美奈子「突き出す、流れる」より

<プロフィール>

北海道大学理学部卒、筑波大学芸術学研究所博士課程修了。電気通信大学講師。コンピュータや新素材を使ったメディア芸術の分野で活動。

2000年から、竹野美奈子達と共に、音声に反応して磁性流体の形状が変化する「突き出す、流れる」プロジェクトを開始し、文化庁メディア芸術祭インタラクティブ部門大賞、デジタルコンテンツグランプリアート部門最優秀賞、情報文化学会芸術賞受賞。作品は、アート素材としての磁性流体の魅力を引き出すことに成功し、海外でも高く評価されている。



メディア芸術家 児玉 幸子

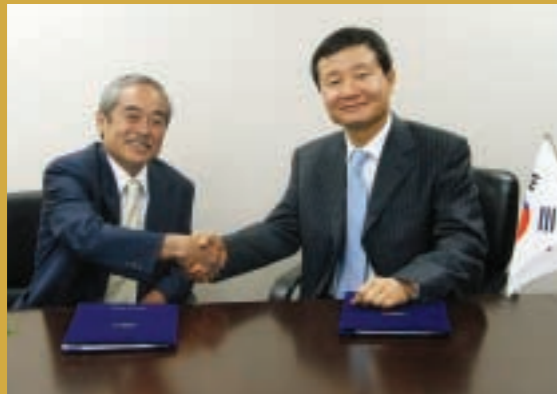
R&Dのテーマ

磁性流体が開発されてから約40年、これまで欠くことのできない類まれな材料として様々な分野で活用されてきました。その用途をさらに拡大していくため、現在、「耐熱性の向上」「長寿命化」「化学的安定性の向上」をテーマに、磁性流体の高度化を実現する基礎研究に取り組んでいます。

特許：磁性流体に関する特許10件取得

引用文献：「情報化社会を支える不思議な液体 磁性流体」〈化学Vol.55 No.7 (2000)〉
(寄稿 当社磁性流体事業部長 津田史郎)

NEWS 1



当社代表取締役社長の山村章と韓国KSM社CEO Kim, Yun Ho氏

韓国のメタルペロース製品トップシェアを誇るKSM社との事業提携

半導体製造装置用溶接メタルペロース製品の世界的メーカーである韓国KSMコーポレーション（以下「KSM社」）と事業提携を行うことで合意いたしました。主な提携内容は、KSM社の韓国国内販売会社による当社の真空シール製品の独占的な販売取扱いと、当社によるKSM社のメタルペロース製品の日本における販売取扱いとなります。今後は、世界の半導体製造装置メーカーを対象に、共同開発・設計に加え、提携地域の拡大をめざしてまいります。

NEWS 2

中国・杭州第三工場が完成。

平成17年5月、当社の中国子会社（杭州大和熱磁電子有限公司）において、杭州工場として三つ目となる新工場の竣工式が行われました。当社が初めて中国杭州市に進出したのは、1992年のことで、従業員9名の小さな工場でスタートしましたが、現在は約2千名が働く大きな工場へと成長しました。新工場では、サーモモジュール、ファイン・セラミックス製品の製造や精密板金加工が稼働します。なお、第三工場は敷地面積約62,000m²、建築総面積約38,400m²の規模を誇り、最も大規模な生産拠点となります。さらなる生産体制の拡充と業務の効率化を図り、より一層の経営基盤強化に努めてまいります。



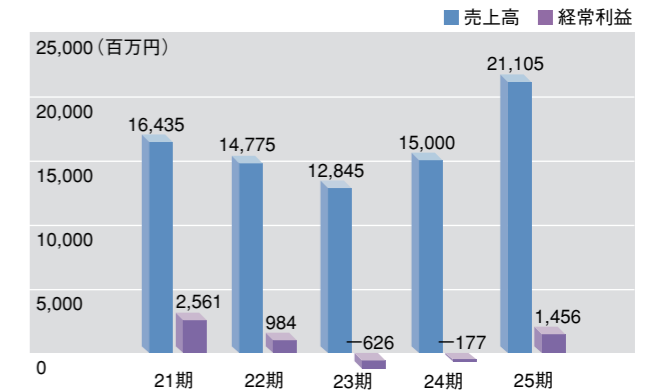
連結財務ハイライト

当年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日）の事業環境においては、エレクトロニクス産業でアテネオリンピック効果によるデジタル家電需要の伸長やインターネット配信用新型音楽プレイヤーなどの新しい市場の拡大が見られました。また、デジタル一眼レフカメラや中国市場での自動車の普及もあり、年央は活況を呈しました。しかし、年後半から価格競争の激化などにより、やや踊り場を迎えた状況となり、電子部品の在庫調整の必要に迫られました。さらに半導体・FPD（フラットパネルディスプレイ）の分野で設備投資の抑制も見られました。

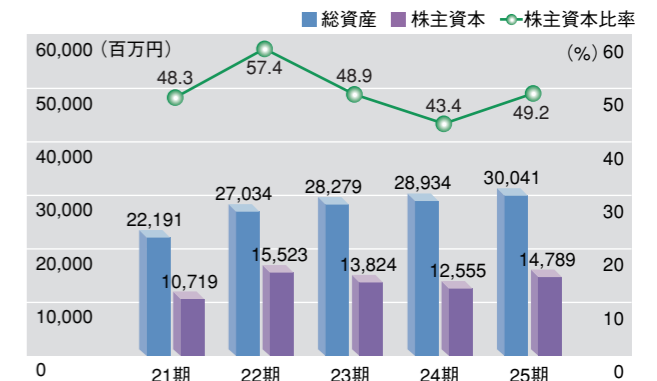
こうした中で、装置関連事業においては、競争力の強化を図るべく国内石英製造ラインの中国移管をさらに進めると共に、高付加価値製品へのシフト等で国内生産の効率化を図りました。また、CMS事業では技術導入および設備搬入が進んだシリコンウェーハ加工が順調に拡大したほか、工作機械の受託製造についても販路拡大により成果を上げました。一方、電子デバイス事業においては、FDB（流体動圧軸受）モーターの採用進展に伴い、当社の主力製品コンピュータシールの需要減が顕著となりましたが、これに対抗する代替製品FFB（磁性流体軸受）の開発が進んでいます。

以上の結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高21,105百万円（前連結会計年度比40.7%増）、営業利益1,762百万円（前連結会計年度比186.5%増）、経常利益1,456百万円、当期純利益633百万円と大幅な回復となりました。

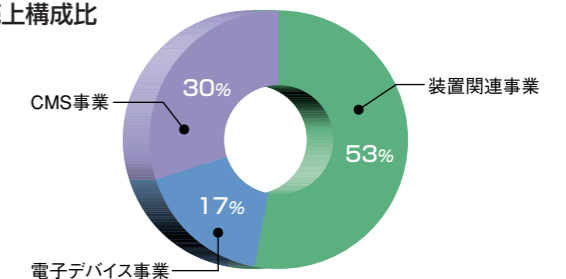
売上高・経常利益



総資産・株主資本・株主資本比率



売上構成比



※上記売上高はセグメント間の内部売上高を含みます。

連結貸借対照表

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第25期	第24期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,599,681	11,976,148
現金及び預金	3,188,815	3,123,532
受取手形及び売掛金	5,065,736	4,298,715
たな卸資産	2,922,602	2,791,211
繰延税金資産	133,622	113,596
その他	1,442,192	1,789,459
貸倒引当金	△153,287	△140,366
固定資産	17,441,927	16,958,839
有形固定資産	11,190,556	10,622,228
建物及び構築物	3,047,344	3,234,817
機械装置及び運搬具	3,608,437	3,445,614
工具器具備品	955,263	963,851
土地	2,552,187	2,602,123
建設仮勘定	1,027,323	375,822
無形固定資産	2,642,694	2,644,422
営業権	1,943,271	1,715,967
連結調整勘定	177,280	409,980
その他	522,142	518,474
投資その他の資産	3,608,676	3,692,188
投資有価証券	1,558,071	1,643,236
長期貸付金	817,391	48,649
繰延税金資産	27,053	381,272
その他	1,366,734	1,641,475
貸倒引当金	△160,575	△22,446
資産合計	30,041,608	28,934,988

〈連結貸借対照表／資産〉

当期末の資産合計は、前期末と比べ11億6百万円増加し、300億41百万円となりました。これは主に、流動資産の受取手形及び売掛金が売上増加に伴い大きく増加したこと、中国子会社の杭州新工場の建設仮勘定によるものです。

〈連結貸借対照表／負債〉

当期末の負債合計は、前期末と比べ11億86百万円減少し、151億68百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少によるものです。

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第25期	第24期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	9,548,363	9,253,967
支払手形及び買掛金	1,840,305	1,889,214
短期借入金	3,093,292	3,197,265
一年以内返済予定長期借入金	2,219,172	2,401,786
未払法人税等	166,589	52,801
賞与引当金	134,247	107,394
その他	2,094,755	1,605,505
固定負債	5,620,567	7,101,323
転換社債型新株予約権付社債	1,776,643	1,870,150
長期借入金	3,637,991	5,053,481
退職給付引当金	30,114	26,609
役員退職慰労引当金	114,500	105,600
その他	61,317	45,482
負債合計	15,168,930	16,355,291
少数株主持分		
少数株主持分	83,423	24,479
資本の部		
資本金	6,910,461	5,824,907
資本剰余金	7,784,251	6,700,406
利益剰余金	762,141	293,249
株式等評価差額金	153,732	210,429
為替換算調整勘定	△661,220	△313,692
自己株式	△160,112	△160,082
資本合計	14,789,254	12,555,217
負債、少数株主持分及び資本合計	30,041,608	28,934,988

〈連結貸借対照表／資本〉

当期末の資本合計は、前期末と比べ22億34百万円増加し、147億89百万円となりました。これは主に、公募増資等による資本金・資本準備金の増加と当期純利益6億33百万円により利益剰余金が増加したためです。

連結損益計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第25期	第24期
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
売上高	21,105,746	15,000,439
売上原価	14,423,382	10,218,908
売上総利益	6,682,364	4,781,531
販売費及び一般管理費	4,920,338	4,166,435
営業利益	1,762,026	615,095
営業外収益	244,791	179,074
営業外費用	550,187	972,150
経常利益	1,456,630	△177,980
特別利益	212,813	103,120
特別損失	458,768	484,782
税金等調整前当期純利益	1,210,674	△559,642
法人税、住民税及び事業税	182,238	24,125
法人税等調整額	350,687	61,393
少数株主利益	43,967	72
当期純利益	633,780	△645,234

〈連結損益計算書〉

売上高は、真空シール、石英製品、シリコンウェーハ加工等が増加し、前期に比べ61億5百万円増加し、211億5百万円となりました。営業利益は、売上の増加により前期に比べ11億46百万円増加し、17億62百万円となりました。経常利益は14億56百万円となり、当期純利益につきましては6億33百万円と大幅な回復となりました。

〈連結キャッシュ・フロー計算書〉

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益12

連結剰余金計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第25期	第24期
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	6,700,406	6,700,406
資本剰余金増加高		
増資による新株発行	1,083,845	—
資本剰余金期末残高	7,784,251	6,700,406
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	293,249	1,075,557
利益剰余金増加高		
当期純利益	633,780	—
利益剰余金減少高		
当期純損失	—	645,234
配当金	136,089	137,073
その他	28,799	—
利益剰余金期末残高	762,141	293,249

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第25期	第24期
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,149,121	1,126,169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,349,524	△2,229,362
財務活動によるキャッシュ・フロー	273,349	1,366,799
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7,663	47,921
現金及び現金同等物の増加額	65,282	311,528
現金及び現金同等物の期首残高	3,123,532	2,812,004
現金及び現金同等物の期末残高	3,188,815	3,123,532

億10百万円に、主に減価償却費等の資金を伴わない費用等に加え、21億49百万円となりました。投資活動の結果使用した資金は23億49百万円となりました。これは主に、中国子会社での設備投資によるものです。財務活動の結果得られた資金は2億73百万円となりました。これは主に、株式の発行による収入20億49百万円及び借入金の純支出額(支出と収入の差引)16億55百万円、配当金の支払い等によるものです。

個別貸借対照表

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期 平成17年3月31日現在	第24期 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	5,864,097	6,989,030
現金及び預金	1,122,616	799,939
受取手形及び売掛金	2,165,414	2,283,708
その他	2,576,067	3,905,382
固定資産	16,990,375	15,851,642
有形固定資産	2,954,704	3,013,718
無形固定資産	8,001	8,618
投資その他の資産	14,027,669	12,829,305
資産合計	22,854,472	22,840,673
負債の部		
流動負債	4,259,700	5,365,903
支払手形及び買掛金	1,015,261	1,280,416
短期借入金(※)	2,186,884	3,007,984
その他	1,057,554	1,077,502
固定負債	3,268,219	4,354,349
転換社債型新株予約権付社債	1,776,643	1,870,150
長期借入金	1,378,518	2,378,642
その他	113,057	105,557
負債合計	7,527,919	9,720,252
資本の部		
資本金	6,910,461	5,824,907
資本剰余金	7,545,239	6,461,394
利益剰余金	877,231	782,945
その他有価証券評価差額金	153,732	211,255
自己株式	△160,112	△160,082
資本合計	15,326,553	13,120,420
負債・資本合計	22,854,472	22,840,673

※1年以内返済予定長期借入金を含む。

個別損益計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	第24期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
売上高	8,927,634	7,398,281
売上原価	6,623,943	5,335,076
売上総利益	2,303,690	2,063,205
販売費及び一般管理費	1,950,873	1,958,092
営業利益	352,817	105,112
営業外収益	452,152	412,311
営業外費用	159,954	339,903
経常利益	645,015	177,520
特別利益	263,541	92,685
特別損失	372,974	235,526
税引前当期純利益	535,582	34,679
法人税、住民税及び事業税	5,349	△2,049
法人税等調整額	299,856	18,015
当期純利益	230,376	18,713
前期繰越利益	645,944	692,281
利益準備金取崩額	—	70,147
当期末処分利益	876,320	781,142

利益処分

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	第24期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
当期末処分利益	876,320	781,142
任意積立金取崩額	—	—
特別償却準備金取崩額	911	891
計	877,231	782,033
これを次のとおり処分いたします。		
利益処分額		
配当金(1株につき8円)	159,331	136,089
計	159,331	136,089
次期繰越利益	717,900	645,944

会社概要

(平成17年3月31日現在)

商号 株式会社フェローテック
 (英文表記) Ferrotec Corporation
 設立 昭和55年9月27日
 資本金 69億1,000万円
 株式公開 JASDAQ 平成8年10月18日(証券コード:6890)
 決算期 3月31日
 従業員数 123名
 事業所 本社 〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14
 関西営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町4-6-17 本町KGビル8F
 千葉テクニカルセンター 〒289-2131 千葉県八日市場市みどり平1-4

役員

(平成17年6月24日現在)

代表取締役社長 山村 章
 常務取締役 賀 賢漢
 取締役 橘 誠
 取締役 濱本 浩志
 取締役 椿 勲
 取締役 山根 威人
 常勤監査役 松井 宏之
 監査役 中元 紘一郎
 監査役 明石 俊夫

グローバルネットワーク

(平成17年3月31日現在)



国内

- 株式会社フェローテック(東京)
- 株式会社フェローテックシリコン(東京)
- ダイヤセルテック株式会社(東京)
- 株式会社フェローテック精密(岩手)
- アリオンテック株式会社(山形)
- 株式会社フェローテッククオーツ(大阪)

海外

- 杭州大和熱磁電子有限公司(中国杭州市)
- 杭州日磁科技工業園産業開発有限公司(中国杭州市)
- 上海申和熱磁電子有限公司(中国上海市)
- 上海漢虹精密機械有限公司(中国上海市)
- Ferrotec Corporation Singapore Pte. Ltd.(シンガポール)
- Ferrotec (USA) Corporation(アメリカ)
- Ferrotec GmbH(ドイツ)
- Ferrotec Ltd.(イギリス)
- Ferrotec S.A.(スペイン)
- Ferrotec S.R.L.(イタリア)
- Ferrotec SARL(フランス)
- Ferrotec Engineering SRL(ルーマニア)

株価/出来高の推移

